

国語科学習指導案

日 時 令和元年 5月31日(金) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
1年D組35名
会 場 1C2A教室
授業者 中村 正成

1 単元名

賢治にとっての「早池峰」

～地元の先輩の思いに触れて早池峰を登ろう～

2 単元について

(1) 学習者観

中学校入学後に学習した文学的文章は、『風の五線譜』、本校の応援歌、『飛べ かもめ』である。『風の五線譜』では、詩を解釈しながらグループで群読をどのように行うかを考え、発表会を行いお互いに評価し合った。詩中に用いられている言葉や対句表現や反復、体言止めなど表現技法に注目し、作者が伝えたいことを考えながらグループで群読の仕方を工夫し、発表することができた。本校の応援歌を読む学習では、リズムに注目したり、古典の言葉を調べたりして、歌詞の意味や歌詞に込められた思いを捉えることができた。『飛べ かもめ』では、行動描写や情景描写等に注目しながら、登場人物の心情の変化について考えを深めることができた。

また、総合的な学習の時間において、共通学習課題『「地域と関わる」とはどのようなことか』に迫るために、早池峰山の環境を保全するために長年山頂避難小屋トイレのし尿の担ぎ下ろしのボランティアを行っている菅沼賢治氏から早池峰山について話を伺っている。7月上旬には菅沼氏と共に早池峰山に登る予定であり、「地域と関わる」ということについて学習をさらに進めようとしている。

(2) 学習材観

中心学習材 『山の晨明に関する童話風の構想』(宮沢賢治)

補助学習材 『詩の心——発見の喜び』(東京書籍 1年)

中心学習材である『山の晨明に関する童話風の構想』は、宮沢賢治が1925年8月に、北上山地最高峰である早池峰山に一人で登った時の様子を書き表したものである。早池峰山を巨大な菓子の塔にたとえ、賢治独特の表現で書き表している。前半は視覚や嗅覚で感じたことを様々な菓子で表現し、後半は「イーハトーボのこどもたち」に向けて、この早池峰山に共に登ろうと呼びかけている。中学一年生が出会う詩としては比較的長く、若干難しめの言葉はあるが、賢治の早池峰山に対する思いを知る上では有効な作品であり、これから早池峰山登山を控えている生徒にはぜひ出会わせたい学習材である。

補助学習材である『詩の心——発見の喜び』は、『雲』(山村暮鳥)、『虫』(八木重吉)、『土』(三好達治)を取り上げながら、詩の作者の言葉の遣い方や表現の仕方、作者の置かれている背景、比喩表現に着目して読むことで、詩からよりたくさんのことを感じたり学んだりすることができるということを読者に示唆している。具体的な詩と触れ合いながら詩を鑑賞する上で押さえておきたい視点を学ばせるという点で有

効な学習材であると言える。

(3) 教科研究との関わり

本校国語科において育成すべき資質・能力を「ことばの力」と設定している。本単元において育成すべき「ことばの力」を以下の通り示す。

詩中に用いられている様々な言葉や表現技法等に着目しながら、その表現の効果や作者の心情を根拠をもって捉える力

また、上記のような「ことばの力」を育成するために、以下の手立てを講じることとする。

① 言葉による見方・考え方を働かせる課題解決的な学びのプロセス

本単元では、様々な詩を読むことを通して、詩を読み深めるための様々な視点を押さえさせながら、その視点を以て『山の晨明……』を読み深める。『山の晨明……』は、一見すると中学生にとっては解釈が難しいと思われるが、賢治が早池峰で見たものが比喩を用いて表現されており、言葉や表現に注目しながら読むと賢治の早池峰での思いに想像を膨らませることができる。賢治の思いに迫るために、この詩を読み深めるための視点を教科書教材で確認した上で、『山の晨明……』に挑戦させたいと考える。

第一次では、総合的な学習の時間とリンクさせながら『山の晨明……』に出会わせ、初発の感想を書く。ここでは、「何が言いたいかわからない」といった感想が予想されるが、この作品を読み深めるための手掛かりを教科書に載っている詩から学ぶことで、この詩を改めて読むという見通しをもたせる。

第二次では、教科書にある『詩の心——発見の喜び』に取り上げられている詩をもとに、詩を読むための視点を押さえしていく。あえて、教科書文をはじめから読まずに、文章に取り上げられている詩に出会わせ、そのときに感じた疑問から詩を読み深めていく。山村暮鳥『雲』、八木重吉『虫』、三好達治『土』と『チューリップ』の四編を取り扱う。それぞれの詩を個人やグループ、全体で読み、詩を読み深めるための視点を押さえさせ、『山の晨明……』の読みへと繋げていく。

第三次では、第二次で学んだ詩を読むための視点をもとにしながら『山の晨明……』を読み深めていく。個人・グループで追究していき、全体で各グループの読みを共有し、単元を振り返りたい。

また、単元学習後は実際に早池峰登山を行うが、早池峰で見る風景と賢治の表現を重ね合わせながら本単元を振り返らせたい。また、登山後は早池峰で考えたことを自由に詩で表現する活動につなげていきたい。

② 国語科における学びの自覚化

今回の単元では、第二次の学びを第三次の読みに生かすという単元展開を行う。第二次の振り返りでは、取り扱った詩を読む上で用いた視点を整理させながら振り返らせたい。取り扱った詩の内容を解釈して終わらせるのではなく、他の詩を読み深めることができるよう、活用した読みの視点を押さえさせたい。また、第三次での振り返りでは、第二次でのどのような読みが役に立ったのかを振り返らせることで、第二次の学びが生きているということを実感させたい。

③ 国語科における真正の学びの場の設定

1学年の総合的な学習の時間では、様々な地域課題に挑む人々の生き方から、自分と地域のかかわ

りについて考えている。現在は早池峰の景観を守るために、山頂にあるし尿の担ぎおろしと携帯トイレの配付・回収活動を20年以上続けている菅沼賢治氏の話をついでながら学習を進めており、7月上旬には早池峰登山を計画している。

今回の言語活動は、この総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメントの視点から設定した。早池峰が地域の人にとってどのような存在かを捉えることにより、登山での学習がさらに強化されると考えた。早池峰には様々な詩碑が立てられているが、早池峰ゆかりの作家である宮沢賢治のものが多い。その中で、中学生にも比較的内容の捉えやすい『山の晨明……』を読み解釈をしていくことで、宮沢賢治の早池峰への思いに迫れると考えた。宮沢賢治が早池峰を愛し、大切に思う気持ちは、現在早池峰の為に尽力されている菅沼賢治氏と重なる部分もある。地域と関わるといことを考えさせる上でも、是非早池峰に関する賢治作品に触れさせたい。

3 単元計画

(1) 育成を目指す資質・能力

【知識及び技能】

- ・ 詩における様々な表現技法を理解し、詩の内容の理解や解釈に役立てることができる。
- ・ 心情や事物を表す言葉に着目し、詩の内容の理解や解釈に役立てることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 詩における様々な表現に着目し、根拠を明確にしながらかその効果や作者の心情を捉えることができる。

【学びに向かう力・人間性等】

- ・ 詩を読む視点を押さえながら、詩に込められた作者の思いに迫ろうとすることができる。

(2) 指導目標

様々な詩を読み取りながら詩を読む視点を押さえさせ、その視点をもとに『山の晨明……』を読ませ、表現の効果や作者の思いをまとめさせる。

(3) 評価規準

【知識・理解】

- ① 詩における様々な表現技法を理解し、詩の内容の理解や解釈に役立てている。(1) 一オ)
- ② 心情や事物の様子を表す言葉に着目し、詩の内容の理解や解釈に役立てている。(1) 一ウ)

【思考・判断・表現】

- ① 様々な表現に着目して『山の晨明……』を読み、根拠を明確にしながらかその効果や作者の思いについてまとめている。(C 一エ)

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 詩を読む視点を押さえながら、詩に込められた作者の思いをまとめようとしている。

(4) 指導計画及び評価計画

次	時	学習活動	評価の観点			見取りの観点
			知技	思考表	態度	
一	1	(1) 早池峰登山の学習(総合)について想起する。 (2) 早池峰に関わる文学作品について知っている			①	① 早池峰に対する賢治の思いを

		<p>ことを挙げる。</p> <p>(3) 『山の晨明……』を読み、感想を書く。</p> <p>(4) 単元の見通しをもつ。</p> <p>○ 学習目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 詩を読み深めるために必要な視点を学び、賢治の早池峰に対する思いを捉える。 <p>○ 学習過程</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に掲載されている作品をもとに詩を読む視点を押さえ、その視点をういて『山の晨明……』を読む。 <p>(5) 『山の晨明……』に表れている言葉について理解する。</p>				捉える目的を理解しながら、これからの学習の見通しをもととしている。(OPPシート)
二	2	<p>(1) 『雲』を読み、作者の心情を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ゆうゆうと」のような作者が感じた言葉に着目して読む。 様々な言葉から感じ取ることができる全体的な雰囲気に着目して読む。 <p>(2) 『虫』を読み、なぜ「涙を誘われる」のかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作者の独特なものの見方に着目して読む。 作者の境遇と作品の関係を考えながら読む。 <p>(3) 詩を読む視点として、次のような視点があることを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作者が見たり聞いたりして感じた言葉に着目する。 作者の境遇と作品の関係に着目する。 	②			② 詩中に表れている事物や様子・心情を表す言葉に着目し、詩の内容の理解に役立てている。(学習シート)
	3	<p>(1) 『土』を読み、「ヨット」に着目しながら詩の内容を捉える。</p> <p>(2) 『チューリップ』を読み、作品中の比喩表現について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 比喩が何を表しているかを捉える。 その比喩表現にすることで、読み手にどのように伝わるかを考える。 その比喩表現から、作者のどのような思いを感じるができるかを考える。 <p>(3) 詩を読む視点として、比喩表現に着目するというを押さえる。</p>	①			① 比喩表現を理解し、詩の内容の理解に役立てている。(学習シート)
三	4 本 時	<p>(1) 賢治が早池峰に登り、どんなことを考えていたかを『山の晨明……』を読んで考える。</p> <p>① 個人で追究する。</p>		①	①	① 詩を読む視点を手掛かりに、表現に着目して根

		<p>② グループで追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作者が見たり聞いたりして感じた言葉に着目する。 ・ 作者の境遇に着目する。 ・ 比喩表現に着目する。 <p>(2) 賢治の思いに迫った時に、第二次のどのような読みが役立ったかを振り返らせる。</p>				<p>拠を明確にししながら作者の思いについてまとめている。(学習シート)</p> <p>① 詩を読む視点を手掛かりにししながら、作者の思いに迫ろうとしている。(学習シート・観察)</p>
	5	<p>(1) 前時のグループの学習の成果を全体に発表する。</p> <p>(2) 全体で疑問に思ったことを交流する。</p> <p>(3) 全体の交流を通して、早池峰における賢治の思いをまとめる。</p>		①	①	<p>① 交流を通して、様々な表現などを手掛かりにししながら、根拠をもって早池峰に対する思いをまとめている。(学習シート・OPPシート)</p> <p>① 全体交流を通して、賢治の早池峰に対する思いを自分なりにまとめようとしている。(学習シート・OPPシート)</p>
単元後の展開		◇ 早池峰登山後、そのときの思いを詩に表現してみる。				

4 本時について

(1) 指導目標

詩を読む視点を押さえさせながら、『山の晨明……』を読ませ、賢治の思いを捉えさせる。

(2) 評価規準

【思考・判断・表現】

- ① 詩を読む視点を手掛かりに、表現に着目して根拠を明確にししながら作者の思いについてまとめている。(C-エ)

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 詩を読む視点を手掛かりにししながら、作者の思いに迫ろうとしている。

(3) 授業の構想

これまでに、生徒は『雲』、『虫』、『土』、『チューリップ』の読みを通して、詩を読み深めるための視点を押さえてきた。『雲』では、作者が物事を見て率直に思い表現した言葉に着目すること、そして文末表現や呼びかけの言葉などが全体的に広々とゆったりとした雰囲気醸成しており、それが筆者の自由へのあこがれにつながっていることを押さえた。『虫』では、作者の「涙を誘われる」という表現、そして作者の置かれた境遇と照らし合わせて考えることで、作者ならではの物事の捉え方や感じ方に迫ることができることを押さえた。『土』、『チューリップ』では、比喩表現に着目させ、その比喩が何を表しているのかを押さえるとともに、その表現することでどのような様子が伝わり、作者のどのような思いが伝わるかを考えさせた。本時は、これらの詩で学んだ詩を読み深めるための視点を活用しながら、『山の晨明……』を読み、賢治の早池峰の思いに迫っていく時間である。

導入では、これまでの学習を振り返るとともに、学習課題を確認し、本時の見通しをもつ。

展開の前半では、学習課題に迫るべく個人読みを行う。これまでに押さえてきた詩を読み深めるための視点をもとに、『山の晨明……』の詩の行間に、気づいたことや考えたことを書き込んでいく。ここでは、この詩に比喩表現が多いことに着目させ、その比喩が何を表しているかを主に考えさせたい。単元一時間目に、詩中に表れている「電気菓子」等難解な言葉については押さえているので、不十分な場合は自分で辞書を用いながら読み進めていく。ここでは、読んでみてよく分からなかったところも明らかにしながら、次のグループ読みでの解決を図りたい。

展開の後半では、グループで学習課題に迫っていく。個人で考えた比喩の捉えを共有し、議論しながら『山の晨明……』が書かれた模造紙に書き込んでいく。グループ読みでは、学習課題である「早池峰に登り、賢治は何を思ったのか」にすぐに迫るのではなく、賢治が比喩表現で何を表しているかについて議論されることが予想される。話合いの状況を見ながら、比喩表現が何を表すのかに終始しないよう、比喩がもたらす効果や、作者の思いについても考えさせるよう適宜助言を与えていきたい。

終結では、個人読みやグループ読みにおいて、どのような視点で読み深めていったかを振り返らせたい。『山の晨明……』を読み深めていく上で役立てた前時までの学びを想起させながら振り返ることで、これまでに押さえてきた詩を読み深めるための視点がどの詩においても活用できるということを実感させていきたい。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・ 予想される生徒の反応等	時間 (分)	指導上の留意点および評価 ・ 指導上の留意点 ○評価
導入	1. 前時までの学習を振り返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【詩を読み深めるための視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作者が五感で感じて率直に思い表現した言葉に着目すること。 ・ 文末表現や呼びかけの言葉などが詩全体に及ぼす効果について考えること。 ・ 作者の置かれた境遇と作品を照らし合わせて考えること。 ・ 比喩表現に着目すること。 </div>	5	

	2. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。		
	【学習課題】 早池峰に登り、賢治は何を思ったのか		
展	3. 個人で『山の晨明……』を読み、自分なりの比喩表現の解釈を学習シートに書き込む。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までに押さえた詩を読み深めるための視点をもとに、行間に気づきを書き込ませる。 ・ 疑問点もメモし、次のグループ読みでの解決を図らせる。
	4. グループで『山の晨明……』を読み、学習課題を追究する。 (1) 自分で捉えた比喩表現の解釈を交流する。	27	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ読みの前半は比喩表現が何を表しているかということについて中心に話し合いが展開されることが予想される。
	<p style="text-align: center;">【注目が予想される詩中の表現等と解釈】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つめたいゼラチンの霧 → 朝の濃い霧の様子 ・ 桃いろに燃える電気菓子 → 朝焼けに輝く雲の様子 ・ またこめつがは…乾葡萄がついてある → 青い葉っぱに実が付いている様子 ・ みんなでいっしょにこの天上の…食卓に着かうではないか → 早池峰に共に登ろうとの呼びかけ ・ まるで恐ろしくぎらぎら溶けた…のぼってくるか → 岩陰から朝日が昇る様子 		
開	(2) 比喩表現や言葉がもたらす効果から、賢治の思いを考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの様子を見ながら、その表現がもたらす効果や、賢治がそのように表現した理由について考えさせる。 ・ 表現の効果等に言及しているグループを取り上げ、話し合いの方向性を示唆する。
	<p style="text-align: center;">【詩中の表現がもたらす効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早池峰にある様々なものを菓子でたとえている。 → 早池峰を夢の場所、楽しい場所と捉え、読み手を山に誘う効果が生まれる。 ・ 菓자에たとえた早池峰を「悪魔のやうに」食べると表現している。 → 早池峰のあらゆるものを、むさぼるように味わい楽しむ様子がうかがえる。 → 特に、「石コ賢さん」の、石に没頭する姿が垣間見える表現。 ・ おまけにいまにあす…どっちにしても見ものなのだ → 見事な朝日を期待しているが、雲の中をただよう朝日も期待している。天候にこだわらず早池峰の自然を愛す様子がうかがえる。 		<p>態① 詩を読む視点を手掛かりにしながら、作者の思いに迫ろうとしている。</p> <p>思① 詩を読む視点を手掛かりに、表現に着目して根拠を明確にしながら作者の思いについてまとめている。</p>

終 結	<p>5. 本時を振り返る。</p> <p>6. 次時の見通しをもつ。</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題を追究する上で、前時までのどのような読み方が活用できたかを振り返らせる。
--------	---	---	---

5 参考文献

- 宮沢賢治記念館（2009）『早池峰山と賢治 いにしへの残丘幻想』宮沢賢治記念館
- 渡部芳紀（2003）『評釈 三七五 山の晨明に関する童話風の構想』
- 続橋達雄（1986）『山の晨明に関する童話風の構想』
- 早池峰賢治の会（2009）『宮沢賢治と大迫・早池峰』早池峰賢治の会
- 浅沼利一郎（2017）『あった！！ 風の又三郎の原風景』「早池峰と賢治」の展示館